

# 平成26年度 高知県普通会計決算見込みについて (ポイント編)

## 1. 歳入歳出決算額の状況

国の経済対策事業の減少等により、歳入歳出規模はともに縮小したものの、実質収支は黒字を確保。

区分	26年度	25年度	増減額	増減率
歳入総額 A	450,988	468,235	△ 17,247	△ 3.7
歳出総額 B	430,972	454,625	△ 23,653	△ 5.2
形式収支 C(A-B)	20,016	13,610	6,406	47.1
繰り越すべき財源 D	17,665	10,845	6,820	62.9
実質収支 E(C-D)	2,351	2,765	△ 414	△ 15.2

### ① 歳入

・歳入総額は3.7%の減少 H25:4,682億35百万円 → H26:4,509億88百万円(▲172億47百万円)  
県税(法人事業税など)や地方譲与税が増加した一方、国の経済対策事業の減少に伴い、国庫支出金、県債が減となったことなどにより、前年度から減となった。

### ② 歳出

・歳出総額は5.2%の減少 H25:4,546億25百万円 → H26:4,309億72百万円(▲236億53百万円)  
国の経済対策事業の減少に伴い普通建設事業や積立金が減となったほか、第三セクター等改革推進債を活用した2公社(道路公社、競馬施設公社)の債務処理が終了したことなどにより、前年度から減となった。  
※義務的経費のうち公債費は7年連続の減少 H25:746億79百万円 → H26:741億8百万円(▲5億71百万円)

### ③ 収支

・実質収支は23億51百万円の黒字 H25:27億65百万円(黒字) → H26:23億51百万円(黒字)

## 2. 各財政指標の状況

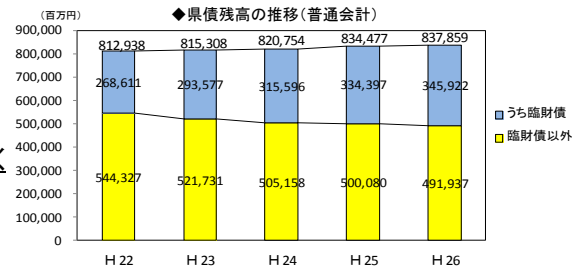
これまでの県債発行の抑制による公債費の減少や職員数の削減などの財政健全化の取り組みにより、実質公債費比率及び将来負担比率がそれぞれ低下するとともに、臨時財政対策債を除く県債残高は14年連続で減少。財政構造の弾力性を示す経常収支比率については、前年度に実施した給与特例減額措置の反動により、前年度に比べ上昇したが平成24年度を下回る水準。

### ① 県債残高

・近年の臨時財政対策債の発行増に伴い県債残高総額は増加傾向。ただし、財政健全化の取り組みの継続により、臨時財政対策債を除く県債残高は14年連続の減少。

県債残高総額 H25:8,344億77百万円 → H26:8,378億59百万円  
(+33億82百万円)

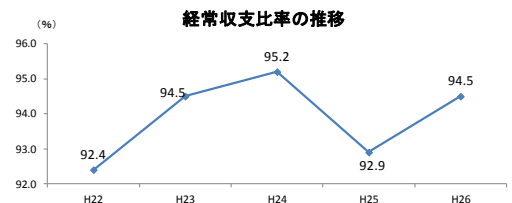
臨時財政対策債を除く県債残高 H25:5,000億80百万円 → H26:4,919億37百万円 (▲81億43百万円)



### ② 経常収支比率

・財政構造の弾力性を示す経常収支比率は、昨年度時限的に実施した給与特例減額措置の反動に伴い人件費が増加したことにより前年度から上昇したが、近年と同水準を維持。

H25:92.9% → H26:94.5% (+1.6ポイント)



## 3. 将来に向けた基金の確保

### ① 財政調整的基金の状況

財政調整的な基金の取崩し(財政調整基金:12億10百万円)を行ったものの、決算剰余金の積立等により、平成26年度末残高は316億6百万円と、前年度末残高(313億10百万円)より増となった。

### ② 特定目的基金の状況

国の経済対策交付金を原資として積み立てた基金などを取崩したことから、平成26年度末残高は170億73百万円(209億79百万円の減)となった。

